

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム 佑紀苑 佐賀		
所在地	佐賀県兵庫町大字若宮字野中2125番地1		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年3月2日	外部評価確定日	平成24年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四季折々の田園風景や室内の自然な明るさの中で、のんびりとした時間を過ごし、いつも笑い声が聞こえている。職員は入居者の皆様と十分に向き合い、今持っている力を使ってできるかぎり自立した生活が送れるように、支援をしている。地域の皆様よりの暖かい支援を受けている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>緑の生け垣に囲まれた事業所は、周りの田園風景に溶け込んでいる。事業所設立にあたり、地域と十分に話し合いがもたれ、地域住民の理解を得て開設されている。それだけに、地域との結び付きが深い事業所である。生け垣の剪定や畑の手入れの手伝いを地域住民がボランティアで作業する姿は、この事業所ならではの姿である。家庭的な雰囲気の中で利用者の尊厳を大事にしながら、利用者本位の支援が行われている。職員の異動がほとんどなく、その笑顔と人間味あふれた接遇は、利用者や家族に相談しやすさや安心感をもたらしている。利用者一人ひとりの個人別のアルバムや近況を記した苑だより、たくさんの手縫い雑巾を地域に役立ててもらおう、細かな作業を必要とする貼り絵、苑の畑で栽培、収穫した野菜を使っての献立、安らぎと落ち着きがある居場所づくり、家庭的な雰囲気の中でも利用者を敬いながらのさりげない支援等、そのほか多くの場面で全職員が一体となったケアを見受ける事ができる。苑のこれから先を見据えての職員育成も計画的に行われている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に着く場所に理念を掲示している。毎朝の申し送り事に唱和をし、理念の下に業務を遂行している。	地域との連携を重視した理念に見直されている。毎朝の唱和は職員の心に根付き、それが日常の支援に活かされている。管理者は理念の具体的な姿を折に触れ指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、活動には地域の一員として一年を通して交流が来ている。	事業所の開設時に地域住民と話し合いを重ねた経緯があり、地域との付き合いが出来ている。春、秋の彼岸にはお遍路さんと触れ合う等、地域の行事にもできるだけ参加している。また、事業所の行事の際は地域の方にも案内を出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会や公民館の行事に参加し、苑の行事には地域の皆様を招待し交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・入居者・地域の代表の皆様と、2月に一回実施している。入居者様・職員の活動を報告し、出席者の皆様よりも、地域の行事へのお誘いや、助言等を頂いている。	会議は2ヵ月毎の開催で活発な意見交換がなされている。利用者が縫った雑巾が地域で活用されたり、地域住民と一緒に音楽コンサート(おやじバンド)等も運営推進会議の中から生まれたものである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者の方とは、運営推進会議への出席のほか、支援センター主催の介護教室の案内状の配布の依頼を受けたり、情報交換や相談が気軽に出来ている。	主に地域包括支援センターを通じて行政との連携が保たれている。認知症予防教室の講師を務めたり、利用者の生活に係る実情を相談したり、日常の暮らしぶり等をお知らせしたりしながら、問題を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへ」の具体的な行為ごとの工夫のポイントを事務所内に掲示し、勉強会に於いて周知徹底させ、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行われていない。玄関等の施錠もなく、閉塞感や抑圧感がない。職員は拘束が利用者にも与える身体的、心理的なリスクを勉強会等を通して十分に認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての資料を事務所内に掲示し常にその意識を持ちながら業務を遂行している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受講した職員や運営推進会議において地域包括の担当者より学ぶ機会がある。制度を利用されている方もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時の際は、代表者・管理者が説明を行い、理解・納得をして頂いている。疑問点にも十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、交代で入居者・ご家族の出席を頂き、ご意見・要望等をお聞きする様に行っている。面会時にも、ご家族の心配ごとなど、お聞きしている。ご自分の気持ちを出しにくい方には、日々の関わりのなかでの気づきを大切にしている。	職員の笑顔と優しさが、利用者や家族に何でも相談できる雰囲気を感じさせている。面会時や家族も参加しての行事、電話等で要望や意見を聴き、運営に活かしている。利用者一人ひとりに応じた支援が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時は、小さい事でも、意見の交換を行い、定例のミーティングには、代表者も出席し、職員の意見を聞き、提案によっては、直ぐに反映させている。	定例の会議だけでなく、日常的に意見が出され、検討されている。若い職員の提案も皆で検討し、運営に反映されている。経験豊かな職員が、若い職員の良き支援者ともなって、その指導が運営に現れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間は、職員個々の希望をとりながら、子育て中の職員への配慮も行っている。向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修後には、定例のミーティングに於いて報告や、回覧等で全職員に周知徹底してもらっている。又、カンファレンス時には、事例をもとに検討会を行い、日々業務の中でトレーニングが行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が同業者と交流できるグループホーム協会の研修には、積極的に参加しサービスの向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居などで馴染みやすい環境を事前に作る工夫をしている。入居時にはご家族と一緒に家具の配置をしたり、入居後落ち着かれるまではご家族に来て頂いたり本人が困っている時、不安な時、側でゆっくりと話を聞きながら安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに耳を傾け、苑の雰囲気や環境を理解して頂いた上で不安な事や要望はないかよく聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを聞きながら、今必要とされている支援は何か、何が望ましいかその方々にあった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できない事への支援を行う一方、できる事は協力して頂いたり、人生の先輩として知恵を貸してもらったり、時には助け合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、本人と家族の絆を大切にしながら職員も交え楽しく語らえる関係を築いている。状態の報告やご本人の要望を伝え、時にはご家族にも協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた馴染みの人やご友人の方々と再会される関係が途切れないよう、外出・外泊の支援にも努めている。行事には、一人でも多くのご家族と一緒に過して頂けるよう案内をしている。	馴染みの場所への散歩、買い物、公園等への外出、知り合いの面会等でこれまでの関係が途切れない様に配慮されている。自宅復帰を目指し、外泊支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には入居者同士の意見の食い違い等があるが助け合い、支え合う関係が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もつながりを大切にしている。訪問したり、退居者のご家族が会いに来られたり、その後の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランは誰が見ても入居者の情報がわかるよう入居者・家族の意向を表記している。日々の暮らしからも入居者の好きな事等を把握し、本人本位に検討している。	入居時の情報からだけでなく、入居後は利用者の心に寄り添いながら一人ひとりの思いをシートに記録し、把握に努めている。縫物やちぎり絵は、かつての思い出話等から始まったものである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の面会時に今までの暮らし方を聞いている。日々の関わりの中からも生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりと向き合いながら現状の把握に努めている。大きく変化がないよう個々に配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合いをし、担当者会議においても、ご家族・本人様の意向を聞き、本人のニーズを引き出し現状に即した介護計画を作成している。	一人ひとりの要望や課題に応じて具体的で実現可能な介護計画が作成されている。家族と職員皆で検討し、よりよい計画となっている。評価、見直しもその方に応じてきちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や取り組みに変化や気づきがあれば、ミニカンファレンスや申し送りノートにて情報を共有し一貫したケアを行うよう努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、柔軟に対応している。一人ひとりの思いを大切にしながら支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、兵庫町主催の文化祭では、花苗を購入したりボランティアの方の温かい豚汁を頂いたりしている。地域の川清掃には、空き缶拾いなどのお手伝いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から、かかりつけ医のある方は、継続されている。ご家族が付き添われる時にはバイタル表を見て頂き状態等を報告している。訪問診療を希望される方もある。症状に応じて専門病院への紹介状を書いて頂き適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族が希望する病院での受診が可能である。最近、協力医療機関が一つ増え、24時間体制で往診が可能になり、家族にも安心となっている。事業所は協力医療機関とは何でも相談でき、受診結果は、家族、事業所共に共有出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全身状態の観察、バイタルチェック等日常の健康管理を行い、少しでも変化や心配がある時には、看護職員に伝え適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、環境の変化等で混乱されないように、安心感を持って治療を受けられる様に、職員は、頻りに訪問している。病院関係者との情報交換や相談など関係づくりもやっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合の対応に係る指針・ターミナルの指針を、入居者・ご家族様に説明をし、同意を得ている。早い段階から、主治医・本人・家族様と話し合い看護・介護の両面からの支援に取り組んでいる。	ターミナルケアの指針や重度化した場合の指針が準備されており、入居時には家族と納得のいく話し合いがもたれている。看とり介護の事例はないが、重度化した場合は、その時に応じての話し合いがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは随時読めるように、職員の目に着きやすい場所に掲示している。定例のミーティング時は勿論、小さな事でも職員間で、対応の仕方の訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、昼夜の火災を想定し、避難訓練を実施している。広域消防局の職員の派遣をお願いし、指導を受けている。災害時の避難場所への経路は、全職員が把握しており民生委員・自治会長様等地域との協力体制を築いている。	実際の火災を想定した避難訓練が近隣住民の協力を得ながら実施されている。避難経路地図が整備されており、地域とも了解がとれている。避難場所やそこまでの経路もきちんと把握されている。最近、自動火災通報装置も設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう心掛けている。個人情報については誓約書を交わし対応している。	尊厳を大切にすることをケアの基本理念にしており、接遇一つにしてもそれが伺える。利用者から「気を遣ってくれてありがとう」の声も聞かれ、日頃の支援の様子を物語っている。個人情報の管理も徹底して守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を日常生活の会話の中から引き出したり、自己決定できるよう言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態を見ながら、一人ひとりのペースで思い思いに過せるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の際には一緒に服を選んだり、2か月に1回散髪に来て頂き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好物や嗜好に配慮しながら、季節の物を取り入れたり、入居者様が苑の畑より収穫した食材を使用する事もある。食事の際は、職員も一緒にテーブルにつき楽しく食事が摂れるように支援している。配膳・テーブル拭き・後片付けなどお手伝いをお願いしている。	職員もさりげなく気を配りながら一緒に食事をしている。和やかな空気が流れる家庭的な食事風景である。献立は職員でもある二人の栄養士が立てている。食後は、テレビの連続ドラマを楽しむなど、ゆっくりとした時間帯になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士にてバランスのとれた食事の提供が出来る。一人ひとりの状態に応じ食事形態もペースト状やお粥食などその方にあつた支援をしている。個々の食事量、水分量の把握も出来る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ口腔ケアを行っており週1回は職員が入歯洗浄をおこなっている。必要に応じ歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録する事で、一人ひとりの排泄パターンを把握しその方にあった声かけや誘導を行っている。	一人ひとりの排泄についてチェック表により把握できている。トイレ誘導の言葉かけもさりげなく行っている。ポータブルトイレの使用は夜間だけであり、失禁等があっても、言葉かけに十分配慮しながら、そっと介助をしている。トイレの表示もわかりやすく、排泄の自立への支援の一つになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた食事の提供、水分量にも注意を払っている。本人の体調や状態にも配慮しながら、かるい運動や天気の良い日には散歩も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ調整を行っている。体調にも配慮しながら足浴や清拭なども行っている。	2日に1度の入浴を基本としているが、希望する方は毎日でも入浴できるように用意ができている。入浴時間に制限はなく、家庭的な浴槽で手足をゆっくりと伸ばしながらの入浴ができる。冬場は特に脱衣場と浴室の室温差が無いように配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に応じ思い思いに休息したりゆっくり過ぎて頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬に関しては必ず申し送りをし、服薬後の症状の変化についても記録を行い情報を共有している。服薬の際にはミスがないかも一度確認し手渡しをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、生活歴や力を活かして役割を持って頂いている。趣味やレクリエーションで気分転換して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態にも配慮しながら外出の支援を行っている。季節を感じて頂けるよう花見や清流見学等も行っている。家族の協力を得て外食や墓参り思い出の場所への外出支援を行っている。	天気の良い日は毎日散歩に出かけている。散歩の途中に近所の方から、黒豆をもらったり、柿ちぎりに誘われて、皆で柿の収穫を楽しんだ事もある。希望により、買い物にも出かけている。季節ごとに手づくりの弁当を持って公園に出かけるのも利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じ、苑で預かったり希望があれば使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自ら電話をかけられたり、手紙が届いた際には手渡しし、ご家族とのやり取りができるようスタッフが付き添い電話をかけるなど支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりがよく、窓から見える景色は季節を感じさせられる。入居者様と職員と一緒に作った毎月ごとの壁画、また行事毎の写真飾り、不快や混乱を招く刺激がないよう居心地よく過ごせる工夫を行っている。	明るくて広い居間は、テーブルやソファが適度に置かれている。耳障りな音も無く、一人ひとりが思いおもいにゆっくりと寛いでいる。思い出の写真や季節に合わせた飾りもあり、利用者の心を和ませている。暖かくなると芝生の庭でゆっくりと過ごされる方もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観ながら、気の合った入居者同士談話をされたり、ソファで寛がれる方、静かに新聞を読まれる方と思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や好みのものを配置したり家族と一緒に写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、馴染みの物等の持ち込みを支援している。手鏡、椅子、棚、写真、お気に入りの洋服、その他色々なものが置かれている。それぞれの居室が、個性や好みにあったその方らしい、落ち着いて過ごせる居場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物を取り除き、安全な環境の中で一人ひとり持っている力を十分に発揮できるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない